

日本自動車殿堂

「2023 殿堂者（殿堂入り）」 「2023 歴史遺産車」 「2023～2024 日本自動車殿堂イヤー賞」 4 賞決定

NPO 法人 日本自動車殿堂 会長 藤本 隆宏(早稲田大学 教授、東京大学 名誉教授)

事務局: 〒東京都千代田区神田神保町1-32 3F

TEL: 03-3291-8511 / FAX: 03-3291-4418 <https://www.jahfa.jp>

1. 2023 日本自動車殿堂 殿堂者（殿堂入り） 4 名



豊田章一郎
トヨタを世界有数の自動車メーカーに
育て上げた功労者



小口泰平
一人自動車系の安全研究の道を拓く



佐野彰一
世界初の四輪操舵技術を実用化



相川哲郎
リチウムイオン電池搭載の
量産EV開発の先駆者

2. 2023 日本自動車殿堂 歴史遺産車 4 車



オートモ号
(1925年)



ダットサンブルーバード(510型)/DATSUN 510
(1967年)



三菱 パジェロ
(1982年)



マツダ 787B
(1991年)

3. 2023～2024 日本自動車殿堂 イヤー賞 4 賞



日本自動車殿堂
カーオブサイヤ
トヨタ プリウス



日本自動車殿堂
インポートカーオブサイヤ
フォルクスワーゲン ID.4



日本自動車殿堂
カーデザインオブサイヤ
トヨタ プリウス



日本自動車殿堂
カーテクノロジーオブサイヤ
SUBARU 広角単眼カメラ付き新世代アイサイト

2023 殿堂者（殿堂入り） 2023 歴史遺産車

2023～2024 日本自動車殿堂イヤー賞

NPO 法人 日本自動車殿堂 会長 藤本 隆宏(早稲田大学 教授、東京大学 名誉教授)

事務局: 〒東京都千代田区神田神保町1-32 3F

TEL:03-3291-8511/FAX:03-3291-4418 <https://www.jahfa.jp>

**表彰式典:2023年(令和5年)11月14日(火曜日)13時30分から、
学士会館(東京都千代田区神田錦町3-28)にて。
オフィシャルサイトにて同時配信します(<https://www.jahfa.jp>)**

1. 2023 日本自動車殿堂 殿堂者（殿堂入り） 4名

豊田 章一郎 氏

(トヨタ自動車元社長、トヨタ自動車元会長、トヨタ自動車名誉会長、1925～2023)

トヨタを世界有数の自動車メーカーに育て上げた功労者

豊田章一郎(とよだ・しょういちろう)氏は、トヨタ自動車を世界的な企業に育てあげ、日本を世界の冠たる自動車大国に導き幾多の経営課題を克服。モノづくりは人づくりの信念のもと人材育成にも注力されました。その偉業をたたえ永く伝承して参ります。

小口 泰平 氏

(芝浦工業大学名誉教授・名誉学長、1937～)

人—自動車系の安全研究の道を拓く

小口泰平(おぐち・やすへい)氏は、人と車の運転制御メカニズムの解明に尽力し、世界で高く評価された横運動走行試験台の開発、四輪操舵理論の確立と実用化への貢献とともに、安全運転教育理論の構築とその講演活動、そして多くの後進や技術者を育成されました。その偉業をたたえ永く伝承して参ります。

佐野 彰一 氏

(本田技術研究所 元取締役、東京電機大学工学部 元教授、1937～)

世界初の四輪操舵技術を実用化

佐野彰一(さの・しょういち)氏は、航空機構造をもとに独創的F1車両を設計してホンダの初優勝に貢献するとともに、歩行者の安全性向上の実験安全車 ASV の開発、世界で初めての四輪操舵システムの実用化など、自動車技術の発展に貢献されました。その偉業をたたえ永く伝承して参ります。

相川哲郎 氏

(三菱自動車工業 元代表取締役社長、1954～)

リチウムイオン電池搭載の量産 EV 開発の先駆者

相川哲郎(あいかわ・てつろう)氏は、自動車技術者として進取の精神をもって電気自動車の開発に挑戦、幾多の困難を克服してリチウムイオン電池を搭載した世界初の量産車を世に送り出し、その後の世界的な EV 化の端緒を開かれました。その偉業をたたえ、永く伝承して参ります。

2. 2023 日本自動車殿堂 歴史遺産車 4車

オートモ号 (1925 年)

オートモ号は、大正末期に日本初の量産自動車として約 300 台が市販されるとともに、初めて輸出された。また国産車開発を目指す多くの技術者を輩出した日本の自動車産業の端緒となった歴史的名車である。

ダットサン ブルーバード (510 型) / DATSUN 510 (1967 年)

ダットサン ブルーバード(510 型) / DATSUN 510 は、多くの新技術を積極的に導入した小型乗用車として国内はもとより米国でも高く評価され、国際ラリー等で活躍し、日本車の知名度向上に貢献した歴史的名車である。

三菱 パジェロ (1982 年)

三菱 パジェロは、高い悪路走破性に加え乗用車感覚で乗れる多目的車として開発され、四輪駆動車の新たな市場を開拓するとともに、パリ・ダカールラリー等、国際的な自動車競技で活躍した歴史的名車である。

マツダ 787B (1991 年)

マツダ 787B は、最高峰の耐久レースであるルマン 24 時間レースにおいて純国産車及びロータリーエンジン車として初の総合優勝を果たすとともに、“飽くなき挑戦”を続け、日本の技術を世界に知らしめた歴史的名車である。

3. 2023～2024 日本自動車殿堂 イヤー賞 4賞

2023～2024 日本自動車殿堂カーオブザイヤー（国産乗用車）

「トヨタ プリウス」および開発グループ

モノフォルムを先進的に追求したスタイル設計
あらゆる人々に受け入れられる乗りやすさと運動性能
さらに進化させた燃費性能向上の PHEV・HEV 技術

2023～2024 日本自動車殿堂インポートカーオブザイヤー（輸入乗用車）

「フォルクスワーゲン ID.4」およびインポーター

後輪駆動方式の BEV によるダイナミックな走行性能
優れた空力特性を実現させた流麗な SUV デザイン
BEV 専用プラットフォームによるパッケージング

2023～2024 日本自動車殿堂カーデザインオブザイヤー（国産乗用車）

「トヨタ プリウス」およびデザイングループ

存在感のあるモノフォルムシルエットのコンセプト
空力フォルムと室内空間の確保の絶妙なバランス
ランプ類など機能部品の斬新なデザイン表現

2023～2024 日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー（国産乗用車）

「SUBARU 広角単眼カメラ付き新世代アイサイト」および開発グループ

カメラ視野角拡大による交差点での事故防止技術の向上
ステレオカメラによる進化させたハイレベルな安全技術
危険回避技術の向上と普及への持続的貢献

【問い合わせ先】

日本自動車殿堂 事務局

担当 武川 明

info@jahfa.jp

TEL:03-3291-8511 FAX:03-3291-4418

* 日本自動車殿堂の組織、活動実績などについては <https://www.jahfa.jp> をご覧ください。

* 受賞者(車)の詳細、写真データは11月7日(火)正午に公開いたします。

<https://www.jahfa.jp>

参考資料 1

2023～2024 日本自動車殿堂イヤー賞投票結果(各賞ベスト3)

2023～2024 日本自動車殿堂カーオブザイヤー		(MAX:190点)
1位	「トヨタ プリウス」	121点
2位	「トヨタ クラウン(スポーツ)」	56点
2位	「ホンダ ZR-V」	56点
2023～2024 日本自動車殿堂インポートカーオブザイヤー		(MAX:190点)
1位	「フォルクスワーゲン ID.4」	110点
2位	「BYD ATTO3」	80点
3位	「メルセデス・ベンツ EQS(SUV)」	72点
2023～2024 日本自動車殿堂カーデザインオブザイヤー		(MAX:170点)
1位	「トヨタ プリウス」	136点
2位	「レクサス RZ」	64点
2位	「三菱 デリカミニ」	64点
2023～2024 日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー		(MAX:150点)
1位	「SUBARU 広角単眼カメラ付き新世代アイサイト」	108点
2位	「ステアバイワイヤによる走りの革新技术:レクサス RZ」	96点
3位	「走行性能とバランスさせた HEV/PHEV 技術:トヨタ プリウス」	64点

参考資料 2

日本自動車殿堂・イヤー賞の選考要領(抜粋)

1. イヤー賞 4賞の選考

当該年度において発表・発売された新型車から「最も優れた乗用車および開発チーム等を表彰する(日本自動車殿堂カーオブザイヤーならびに同カーデザインオブザイヤー、同カーテクノロジーオブザイヤーは国産乗用車から、同インポートカーオブザイヤーは輸入乗用車からそれぞれ選出する)。

2. 年次の選考対象期間

本年度の新型車の対象期間は、2022年10月16日から2023年10月15日までをその期間とする。

3. 選考方法

- (1)イヤー賞4賞は、それぞれについて評価項目を設け、それに準拠しながら総合的に選考を行なう(詳細は当会ウェブサイト <https://www.jahfa.jp> 参照)。
- (2)選考委員は、自動車研究に係る大学教授や研究開発機関の研究者等とし、4賞に延べ70名があたる。

以上